

一般社団法人大日本武徳会の未来的展望

代表理事 濱田 鉄心

自然界の有為転変がもたらす予期せぬ変化と同じく、人間の作り出す世界も変化は常に起きている。人が地球上自然界の一部である以上、変化しないことが不自然である。生者必滅の原理は単に変化のプロセスでしかない事も理に適う。人間はマクロの世界とミクロの世界に混沌とした形で存続しており、それは世界に存在するそれぞれの固有のDNAを持った七十億人の人間が作り出す複雑極まりない膨大なエネルギーの交差でもある。そしてその環境には常に張り詰めた緊張感が漂い、予期せぬ新たな変化が出現する。反面そのような俗人間世界にある矛盾や歪が繰り出すエネルギーがあるからこそさらに新しい変化が要求され生み出される。それは大きな社会変動に対して人間に適応を迫る自然淘汰の力であるかもしれない。しかしある意味ではそのような変化を恐れない人間にとって逆境は常にひとつのチャンスである事も確かである。前代未聞の敗戦と国土の壊滅的な破壊を克服してわずか七十年間で世界が羨む平和な経済大国を再生させた我が国がそれを証明している。しかしながら現在において大きな技術革新による変化と不確定な社会変動がグローバルなスケールで押し寄せる中、独立立憲国日本の未来が試されている。世界が我々を変えるか、それとも我々が世界を変えるか、もし変えるならばどのように変えるか、また変えさせないとするならばどのように対処するか。その主体性と選択は常に我々にあるという事を忘れてはならない。

武道家は常にその修行の場で守破離の道を歩むと言われている。然り国家も組織もその未完成の完成を目指して同じ道程を歩むのではなからうか。商品開発や生産性や営利を目的とした組織と異なり本会は文化教育的な観点から営利を目的とせず、スポーツ競技を主体としないう純粋な一般社団法人武道団体である。本会は武徳の基本理念を守りつつ、歴史の流れに対応して変化し続ける事が破に通ずるとすれば、多種多様な試みがあつて当然である。無形伝統文化の世界では必然的に極力保守的に物事を進めるのが習わしであるが、その中に斬新な試みも可能であれば取り入れることがさらに伝統の重みと美しさを高める場合があることを忘れてはならない。過去に存在した流派武術の栄枯盛衰の歴史を振り返ってみると、固定観念のみに固執してきた流派は守破離の各領域を超えることが出来なかつた事実がその衰退の要因であつたように思われる。伝統武道の神髄である形稽古は基本中の基本でありその鍛錬の厳しさは類を見ない。その無衣無心の精神性こそが想定された実戦において生死の刹那の分かれ目になることは言うまでもない。個人の危機管理教育が存在しない現代の日本において精神性を重視する伝統武道が貢献できることは多々あるのではないかと考える。伝統武道・武術を通して体験できる多様な教育的価値は自信に満ち溢れた個の確立に繋がり、その人の人格形成に大いに役立つ事は何よりの宝である。それ故に本会は長年の歴史を通じて引き継いで